
日本ミルトン協会 会報

Newsletter of the Milton Association of Japan

Vol. 8 (2016)

Japanese Milton Scholars in the World

川崎 和基

第 11 回国際ミルトン学会 IMS11 (The Eleventh International Milton Symposium) が 2015 年 7 月 20 日から 24 日にかけて英国エクセター大学で開催されました。日本ミルトン協会 (MAJ)からは、圓月勝博先生、小林七実先生、佐野弘子先生、野呂有子先生が発表されましたが、私は出席者として参加しました。IMS11 に集った参加者達から、口をそろえて、私に、青山学院大学で開催された IMS10 (The Tenth International Milton Symposium) についての好意的な感想を伝えてきました。きっとこれは私に与えられたメッセンジャーとしての役割なのだと感じ、ここに IMS10 にご尽力された MAJ の先生方ならびに関係者各位に報告します。IMS10 から 3 年経っても、そこに参加されたミルトン研究者たちは鮮明にその様子を覚えておられ、能や詩の朗読といった文化的イベントや日光や東京観光など強く印象に残っているようでした。余談ですが、アメリカからの参加者のなかには、IMS10 で伴侶を見つけられた方もいたようです。しかし、よく考えてみれば、何故発表者でもない私にこれだけ声をかけてくれたのでしょうか。ここであらためて、IMS10 の日本開催のみならず、日本のミルトン研究者の先達や現在も活躍されている MAJ の先生たちの恩恵を受けていることに気付かざるをえませんでした。

思い起こせば私が日本ミルトン協会の前身の日本ミルトン・センター (MCJ) に初めて出席したのは、後期課程 1 年の時で、その頃は、論文や図書でしか知らない先生方の前で畏れ多く感じ、ただただ緊張していました。当時文通をしていた新井明先生から私の研究分野に一番近い先生が故志鷹英行先生であると教えていただきましたが、MCJ で会った志鷹先生はその著書から想像していた人柄とは全く違い（怖い方だと勝手に想像していました）、道家弘一郎先生と同じく温厚で、いつも誰かから守ってくれるかのようについていてくれました。また、故白鳥正孝先生も私がよっぽど怯えていたように見えたのか常にそばにいらしてくれたことを覚えています。故小野功生先生からいつのころからか「おーきたかー」などと満面の笑みで迎えていただいたことも畏れ多く話しかけることができなかつた先生方に話しかけるきっかけになりました。また、MCJ の研究大会が同志社女子大学で開催されるごとに、故黒田健二郎先生率いる一団に混ざって祇園に行けたのは学生にとっていい社会勉

強になりました。そうこうしているうちに、ウェールズ大学大学院で Thomas N. Corns 先生の指導のもとで研究していると、時折、圓月先生、佐野先生、野呂先生、志鷹先生、辻裕子先生やその他多くの先生の名前を口にし、日本のミルトン研究のレベルの高さを評価しておりました。そこであらためて MCJ の先生方が、日本のみならず世界で活躍する日本人ミルトン研究者であることに気付かされ、さらに畏れ多い存在だと実感しました。もちろん MAJ になってもそれは変わりません。

また、最近になります、アメリカの The Huntington Library の読書室で Jameela Lares 先生にばったり会いました。その時、日本人ミルトン研究者について話された後、Lares 先生は故小森禎司先生の功績について話されました。Lares 先生の The Huntington Library に来た主な理由は、何冊かの蔵書にあたるためでありましたが、その蔵書はすべて小森先生が寄贈されたものでした。読書室と一緒に戻ると、先生はある本を手にし、私に小森先生の蔵書印が押されてあるページを見せてくれました。私は感慨深い思いでその蔵書印を見つめていました。

先日、台湾のミルトン研究者である Chia-Yin Huang (黃嘉音) 先生とアジアにおけるミルトン研究について話していると、黒田先生、佐野先生、野呂先生らの論文等を参考にして日本におけるミルトンの影響についての論考を作成したと教えてくれました。また、日本のミルトン研究について調べているときに、快く紳士的に資料を提供してくれたのが志鷹先生であったとも教えてくれました。

ここに書きつくせないほどの多くの日本のミルトン研究者の活躍が（富樫剛先生の Milton Quarterly への投稿等）、今日の世界における日本のミルトン研究の評価につながっているのだと実感します。気が付けば、アジア、アメリカ、ヨーロッパといった世界のミルトン研究者が日本のミルトン研究を覗いています。今後日本のミルトン研究のより一層の活性化を願っております。

日本ミルトン協会 第 12 回 研究会 報告

日時 2015 年 7 月 4 日（土） 午後 3 時～午後 5 時

場所 AP 東京 八重洲通り 11 階 O ルーム

発表

1. 松村祐香里：Paradise Lost の中の遺棄者：
Satan の人物造形に見られる絶望のナラティブ

2. 渡辺賢一郎：『パラダイス・ロスト』をポケットに：

トンソンの 12 折り本について

(出席者 17 名)

日本ミルトン協会第 6 回大会および 2015 年度総会 報告

日時 2015 年 12 月 5 日 (土) 午前 10 時 15 分～午後 5 時 00 分

場所 龍谷大学深草キャンパス

発表

1. 桶田由衣：A *Mask*における Milton の独自性と女性への賛美
2. 野呂有子：『偶像破壊者』と詩篇翻訳

シンポジウム："Overturn, overturn, overturn"

—Paradise Lost をひっくり返す—

1. 富樫剛：*Paradise Lost* はキリスト教叙事詩か
2. 圓月勝博：痛みが見たい—言語芸術作品としての『失樂園』—
3. 笹川渉：「虚構ではない」『失樂園』—ソロモン王による国王の表象再考—
4. 高梨 光正：ミルトンの *Paradise Lost* を読んだイタリア人たち

総会議事録

1. 活動報告

川島事務局長より 2014 年度の活動について報告があり、了承された。

2. 2014 年度会計報告および会計監査報告（金崎八重、菅野智城）

金崎事務局委員から 2014 年度会計報告が報告され、菅野会計監査委員より監査の結果報告の通りで間違いなしとされた（箭川委員も事前に確認）。総会出席の会員により了承された。（7 ページ参照。）

3. 2015 年度予算（金崎八重）

金崎事務局委員から 2015 年度予算が提案され、総会出席の会員により了承された。（7 ページ参照。）

4. 2016 年度行事予定について

下記の通り提案され、了承された。

第 13 回研究会：7 月 2 日 関東会場（予定：フェリス女学院大学）

第 7 回大会および 総会：12 月 3 日 龍谷大学深草キャンパス

5. 若手支援のための規約改訂について

規約の会計項目に、「若手支援」に関する事項を追加する改定案が提出され、承認された。（新規規約については 8-9 ページ参照。）

（出席者 30 名）

日本におけるミルトン研究文献目録（2015年度）

- 大島範子 「劇場閉鎖と教育的エンターテインメント」 十七世紀英文学会編『十七世紀英文学を歴史的に読む』金星堂（2015. 5）、163-181頁。
- 勝野由美子 「新天文学の受容—マールロウ、ダン、ミルトンの作品をめぐる—」 十七世紀英文学会編『十七世紀英文学を歴史的に読む』、47-64頁。
- 川島伸博 「彌耳敦と蘇峰」『龍谷紀要』第37巻第2号（2016. 3）、55-66頁。
- 笹川渉 「国王の像とイエス生誕詩—一六三〇年から王政復古まで—」 十七世紀英文学会編『十七世紀英文学を歴史的に読む』、111-136頁。
- 里麻静夫 「トロロプの『今の我々の生き方』とギッシングの『三文文士』に見る文芸上の愚人」 中央大学英米文学会『英語英米文学』第56集（2016. 2）、17-50頁。
- 佐野弘子 「ミルトン喪失と回復—ミルトンと日本—」 青山学院大学英文学会『英文学思潮』88巻（2015. 12）、1-27頁。
- Sano, Hiroko, "Milton's Global Impact: Japan" Thomas N. Corns ed. *A New Companion to Milton*, Wiley Blackwell (2016), 576-578.
- 中山理 「『パラダイス・ロスト』に見るミルトンの自然観を歴史的に読む—日本とイギリスの比較文化的研究の視点から—」 十七世紀英文学会編『十七世紀英文学を歴史的に読む』、137-162頁。
- 森道子 「ミルトンの否定的表現とエピックシミリ」 沖田知子・米本弘一編『阪大英文学会叢書 英語のデザインを読む』英宝社（2015.10）119-29頁。

事務局だより

2015年7月4日

第12回研究会、第17回運営委員会（出席者8名）

運営委員会議事録は次の通り。

1. 2014年度決算について

金崎委員より報告。承認された。

2. 2015年度予算について

金崎委員より提案。一部、数字の訂正の上、承認された。

3. 十二月研究大会の研究発表について（懇談）

富樫委員より、シンポジウム：「"Overturn, overturn, overturn" ——Paradise Lost をひっくり返す——」についてのパネリストと内容についての説明があり、

その後の議論で、研究発表は野呂有子先生と若手研究者にお願いすることが決まった。連絡役は事務局が担当。

4. 今後の活動予定について（懇談）

来年度の会場、会報の巻頭言担当者について、意見が交わされた。これら二つの案件については、十二月開催の18回運営委員会において改めて審議する。

5. その他

本年度十二月大会の会場バイトは、開催校である龍谷大学では確保できないため、関西在住の他大学の院生に協力をお願いすることとした。

12月5日

第6回大会。第18回運営委員会（出席者7名）。

運営委員会議事録は以下の通り

報告事項：

1. 2014年度決算会計監査報告

会計監査委員により問題なしと確認された。

審議事項：

1. 2015年度活動予定について

研究会 7月2日 関東地区（会場は未定）

発表者案：二人のうち一人は若手に依頼することが決定。

大会・総会 12月3日 龍谷大学（深草キャンパス）

シンポジウムは水野眞理氏をコーディネーターとし、テーマは水野氏に一任。

発表者案：二人のうち一人は小林七実氏に帰朝報告を依頼することが決定。

2. 『会報』第8号巻頭言執筆者について

川崎和基氏に担当を依頼することが決定。

3. その他：1. 若手支援策

（1）以下の規約改正案を、総会に提案。2015年12月5日付で規約改正することが承認された。

7. 会計 (1) 会費

会員の会費は年額5,000円とする。ただし、学生会員の会費は1,000円とする。

(2) 会計監査

会計監査は、原則として年1回、会計監査委員が行い、運営委員会および総会に報告する。

(3) 若手支援

学生会員が研究発表を行う場合、1万円を上限に自宅あるいは

在籍校から会場までの実費交通費を支給する。

(2) 新たに若手奨励賞を設けてはどうかという提案がなされた(⇒継続審議)。
その他：2. 一本の通帳で、経常会計と基金会計が管理されていることについて
疑念が表明された。⇒ 通帳内に「基金会計 1,500,000 円を含む」と但し書きする
ことで、問題なしとされた。

名簿追加

	氏名	〒	住所	電話・メール	所属(非常勤)
新規	松村祐香里				慶応大学院生
変更	笹川涉				青山学院大学
変更	佐野弘子				青山学院大学 名誉教授
変更	菅原隆志				
変更	堀内直美				
追加	飯沼 万里子				

* WEB 掲載版には住所と電話番号の情報は記載いたしません。

日本ミルトン協会 2014年度会計決算報告 および 2015年度予算案

自2014年4月1日

至2015年3月31日

	摘要	2014年度予算案	2014年度決算	2015年度予算案
収入	会費	250,000	258,000	250,000
	前年度繰越金	2,368,818	2,368,818	2,553,285
	雑収入	0	355	0
	計	2,618,818	2,627,173	2,803,285
支出	会報関係費	70,000	46,732	70,000
	印刷費	0	0	0
	HP管理費	12,875	13,156	14,000
	会場関連費	30,000	14,000	120,000
	雑費	500	0	1000
	次年度繰越	2,505,443	2,553,285	2,598,285
	計	2,618,818	2,627,173	2,803,285

基金会計

ゆうちょ銀行	1,500,000
--------	-----------

上記の通り間違いありません。

2015年12月5日

会計

金崎 八重



会計監査

箭川 修



菅野 智城



日本ミルトン協会規約

1. 名称 本会は、日本ミルトン協会（The Milton Association of Japan）と称する。
2. 目的 本会は、日本ミルトン・センター（The Milton Center of Japan, 1975年7月18日－2008年3月31日）の事業と組織を継承し、ミルトン研究を促進することを目的とする。
3. 事業 以上の目的を達成するために、次の事業を行なう。
 - (1) 研究大会
 - (2) 研究会
 - (3) 広報活動
 - (4) その他
4. 組織 本会は、本会の主旨に賛同する者をもって組織する。
5. 役員 本会に以下の役員を置く。役員を選出については付則に定める。

会長 1 名	事務局長 1 名
事務局委員 2 名	企画委員 6 名
ホームページ委員 2 名	会計監査委員 2 名
6. 機関
 - (1) 総会
本協会の最高決議機関とする。議長は会長が務める。
 - (2) 運営委員会
運営委員会は、本協会の運営に関する事項を審議する。委員長は会長が務める。運営委員会は、以下の役員によって構成する。

会長	事務局長	事務局委員
企画委員	ホームページ委員	
 - (3) 事務局
事務局は、会計、機関誌の発行、その他の事務を担当する。
 - (4) 企画委員会
企画委員会は、研究大会・研究会等の企画を行う。
 - (5) ホームページ委員会
ホームページ委員会は、本協会のホームページの管理・運営にあたる。
 - (6) 顧問をおくことができる。
7. 会計
 - (1) 会費
会員の会費は年額 5,000 円とする。ただし、学生会員の会費は

1,000 円とする。

(2) 会計監査

会計監査は、原則として年 1 回、会計監査委員が行い、運営委員会および総会に報告する。

(3) 若手支援

学生会員が研究発表を行う場合、1 万円を上限に自宅あるいは在籍校から会場までの実費交通費を支給する。

8. 規約の改正 本規約の改正は、総会における出席者の過半数の賛成によって実施する。

9. 設立年月日 本会の設立年月日は 2008 年 4 月 1 日とする。

10. この規約は、2008 年 4 月 1 日から施行する。

付則 役員の選出ならびに所在地

- (1) 会長は、運営委員会の推薦に従って、総会において選出する。任期は 3 年とし、再任を認めない。
- (2) 会長は、運営委員会に諮った上で、役員を任命する。
- (3) 事務局長は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。事務局委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。
- (4) 企画委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。
- (5) ホームページ委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、再任を妨げない。
- (6) 会計監査委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、再任を認めない。
- (7) 本会の所在地は次のとおりとする。

〒612-8577 京都府京都市伏見区深草塚本町 67
龍谷大学法学部 川島伸博研究室

2008 年 4 月 1 日

2012 年 4 月 1 日改正

2014 年 4 月 1 日改正

2015 年 12 月 5 日改正

日本ミルトン協会 役員および委員

(2016年4月1日現在)

顧問 新井 明 聖学院大学

会長 桂山康司 京都大学

事務局長 川島伸博 龍谷大学

事務局委員 金崎八重 大阪府立大学工業高等専門学校

笹川 渉 青山学院大学

企画委員 圓月勝博 同志社大学

川崎和基 日本大学

小山 薫 同志社女子大学

富樫 剛 フェリス女学院大学

中山 理 麗澤大学

西川健誠 神戸市外国語大学

ホームページ委員 小林七実 (同志社大学)

笹川 渉 青山学院大学

会計監査委員 菅野智城 (法政大学)

箭川 修 東北学院大学

* () は非常勤講師

日本ミルトン協会 会報
Newsletter of the Milton Association of Japan
第 8 号

2016 年 4 月 1 日発行

編集者兼発行者 日本ミルトン協会
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67
龍谷大学法学部
川島 伸博研究室
振替番号00990-5-306177